

フサヒゲルリカミキリの保護対策

(1) 種名 (学名)

フサヒゲルリカミキリ

(*Agapanthia japonica*)

環境省 RL2018：絶滅危惧 IA 類 (CR)

国内希少野生動植物種 (H28 指定)



(2) 生態の概要

- ・カミキリムシ科の日本固有種です。
- ・成虫は体長 15～17mm で体は黒から紫藍色、上翅は紫藍から緑藍色の弱い金属光沢を持ち、触角は第 1、3 節端がフサ状になっています。
- ・成虫・幼虫ともユウスゲを食草とし、ユウスゲの花茎に産卵することから、ユウスゲの生育する湿性草原に限って生息しています。
- ・幼虫はユウスゲの内部で越冬し、翌年の 6～7 月にかけて成虫が発生します。
- ・生態には未だ不明な点が多く残されています。

(3) 分布状況の概要

- ・かつては北海道や本州の各地に分布記録がありました。
- ・現在の生息地は岡山県と長野県のみです。
- ・近年の確実な生息情報は岡山県の蒜山地域の一部のみです。

(4) 減少の要因

湿性草原は、時間とともに遷移、乾燥化し、放置されれば森林に飲み込まれてしまう運命にあります。自然界で湿性草原があちこちで生まれては消える中で、ユウスゲもフサヒゲルリカミキリも移動しながら生存してきましたが、湿性草原の多くは開発などにより消失してしまっています。

一方、岡山県内の生息地の個体群は、春の山焼きや、その後の牛馬の飼料、建築資材等への利用を目的とした採草という伝統的な集落の営みにより維持されてきた湿性草原に依存して生息しています。

(5) 中国四国地方環境事務所の取組

国内希少種に指定された平成 28 年度より、食痕や産卵痕を利用したモニタリング手法の検討と実施、好適な草原環境の調査や環境改善のための試験的な草刈などを実施しています。

なお、環境省本省により、平成 30 年度から協力昆虫園等で飼育下繁殖を開始してい

ます。

(6) 他機関、NGO 等の取組

地元集落とボランティア団体「山焼き隊」(真庭市営「津黒生きものふれあいの里」と医療法人創和会「重井薬用植物園」が協力して運営)によって山焼きが実施されています。

倉敷市にある重井薬用植物園で食草であるユウスゲが栽培されており、環境省事業への協力として、将来、フサヒゲルリカミキリの生息地への移植が計画されています。

(7) 課題

生息地の草原は現在では採草が行われなくなり、毎春の山焼きにより何とか維持されてきましたが、地元集落の高齢化や後継者不足等により、山焼きの実施が困難になってきています。平成 30 年春の山焼きは「山焼き隊」が主体となって地元集落の協力も得て実施されましたが、今後の山焼きの実施体制については関係機関で検討中です。

また、山焼きのみではススキ類の繁茂を十分抑制できないことからユウスゲが減少しており、山焼きに加えて草刈りが必要で、刈草の利用も検討されています。

加えて、将来的にシカの侵入によりユウスゲが食害を受ける可能性が指摘されています。